

高知大学共通教育広報誌 [パイプライン]



PipeLine



特集

分科会「人文分野」「自然分野」

No.46 Contents

特集：分科会「人文分野」「自然分野」	P1~4
教養のページ 農場実習について	P5~6
FD部会報告 コンピテンシー面接始まります!	P7~8
Information eラーニングという新しいチャレンジを!	P9

人文分野分科会

人文分野分科会長
大櫛 敦弘 (人文学部)

人文分野とは

人文分野に関わる「人文科学」について、「自然科学・社会科学に対して、哲学・言語・文芸・歴史などに関する学問の称」(『広辞苑』第四版)といった説明がなされています。高校の授業でいえば、古文や漢文も含む「国語」や、「社会」のうちの倫理社会、日本史、世界史、地理、さらには音楽、美術、書道などの芸術科目がこれに当たるのでしょうか、本学の共通教育における人文分野の範囲は、それらとは区別が微妙に異なっており、さらにそこには見られない学問もいろいろと含まれています。とりあえずここでは、人文分野を哲学・倫理、心理、歴史・地理、文学(・言語学)、芸術といった学問分野に分けてご紹介することといたしましょう。

●人文分野の授業

幅広い人文分野の授業全体の内容を、一口で説明するのは簡単ではないので、本年度開講の各学問分野の授業題目(教養科目)のうちから、いくつか思い付くままに挙げてみました。

【哲学・倫理】

文化人類学入門、神話と儀礼、食の哲学、リラクセーションの哲学

【心理】

心理学を学ぶ、対人コミュニケーション論を学ぶ

【歴史・地理】

イネと青銅と鉄の伝来、江戸時代の産業と地域社会、
映像を通して考える中国近現代の地域社会、風景と空間の科学

【文学（・言語学）】

源氏物語の恋愛と結婚、芥川龍之介の作品を読む、日本語方言の探究、
教養の漢字学、外国文学

【芸術】

彫刻入門、合唱初級、美術を学ぶ、書道入門、近代美術への接近

スペースの関係で、ここに挙げたのはごく一部にすぎませんが、多種多様な内容の一端をうかがうことができるでしょう。皆さんの興味や関心を引く授業もいくつか含まれているのではないのでしょうか。

一般論として、人文分野の学問は必ずしも便利な「道具」を提供するものばかりではありません。むしろ、その「道具」を使う側である「自ら」を振り返り、豊かにし、その血肉となり、視野やあるいは裾野を広げることで、生き方や行動の指針とさえもなるものといえます。個々の学問分野に対してはそれなりに相性などもあるかもしれませんが、そこからどれだけのものを汲み取ることができるかによって、それは皆さんにとって「一生もの」の財産ともなりうるのです。これらの授業を通じて、このような新たな世界と出会い、その魅力に気づくきっかけとなれば、幸いこれに過ぎるものはありません。

●人文分野分科会とその活動

当分科会は人文分野の授業を担当する人文、教育学部の各学問分野の委員に、農学部、医学部の委員も含めて11人の委員で構成されています。そこでは農学部での開講分も含む毎年のカリキュラム編成のほか、FD活動や自己点検・評価活動を展開しています。例えば昨年のFD活動では、何人かの教員にボイスレコーダーに録音した自らの授業を聞き直してもらい、そこで気付いた点や反省点を話し合い、共有するような試みを実施しました。授業アンケートなども併せて、授業を改善していくこうした地道な取り組みが続けられております。



自然分野分科会

自然分野分科会長
三宅 尚 (理学部)

●活動内容とメンバー

自然分野分科会では、①自然分野に関する科目のカリキュラム編成と実施、②授業に関するFD活動、及び③授業に関する自己点検評価活動を行っています。FD(Faculty Development)とは、教育活動の質的な向上を目指す取り組みのことです。本分科会は、開講する科目数が多く、カバーする学問領域も広範なため、13名(教育学部2名、理学部6名、医学部1名、農学部4名)の委員で構成されています。また本分科会には、FD担当の今城雅之委員(農学部)、自己点検評価担当の三角淳委員(理学部)の2名の副分科会長がおります。

●自然分野の授業科目

本年度開講の授業科目数は、教養科目が40科目、共通専門科目の基礎科目が45科目です。教養科目では、理学や農学の諸分野に関連する科目のほか、分野横断的な科目も用意されています。また、座学だけでなく、制作やグループ学習、野外調査などを組み合わせた面白い科目もあります。基礎科目には、多くの概論・実験科目が配置されています。(ただし、次年度から大部分が専門科目に移行予定)特に実験科目は、他の分野にはない、本分野固有の基礎科目だといえるでしょう。他に、「〇〇学の基礎」(例えば、物理学の基礎)という科目もあります。これは、リメディアル教育の一環として開講している科目で、高等学校で自然分野を十分に学習できなかった学生を対象とした補習授業になります。(通常の授業科目の2倍の学習時間が必要)



●本年度に進めたいFD活動

理化学研究所のSTAP細胞論文における剽窃・盗用問題を契機に、自然科学の分野では「研究者の倫理意識の醸成」が特に重要になっています。これから学習を深め研究を始める若い皆さんにとっても、とても大切な課題です。先に述べたように、本分野には実験科目が配置されています。多くの実験では、高い頻度でレポートなどを課されるのではないのでしょうか。そもそも、私たちがレポートを課す理由は、実験などで得た知識・データを自分でまとめる方法を学ばせ、皆さんの学習成果を評価するためです。レポートも立派な著作物です。先輩や友人が書いたレポートを写したり、少し手直しして提出したりすることは、「盗作」になります。盗作という不正行為は、(読み手が)レポートを成績の判定材料にできないという問題だけでなく、(書き手が)文章表現の学習機会を自ら放棄するほか、(その行為自体が)著作権の侵害にあたるという問題を引き起こします。良いことは一つもありません。

本年度は剽窃・盗用などに対する皆さんの問題意識などをアンケート分析から把握し、知財教育の効果的な進め方に関する提言を行いたいと思います。皆さんのご協力をお願いします。

●自然科学への招待

本分野では、自然現象やそこに見出される法則の面白さや意外さをあまねく紹介するものから、地震・防災や地球環境問題など、現代社会が直面する問題を題材として、物事を論理的に捉え、様々な観点から解決方法を見つける能力を養うものまで、バラエティ豊かな授業が満載です。これまでの履修歴を問わず、楽しく学べると 생각합니다。授業では「なぜ?」、「もっと知りたい」という気持ちを大切にして、私たちに直接ぶつけてください。また、私たちの身の回りには魅力的な自然が数多く残されています。野外に出かけ、実体をよく観察するのもよいでしょう。ぜひ受講してみてください。



農場実習について

農学部 尾形 凡生

私には『農学部附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター・循環型暖地農業生産部門・主担当教員』という肩書きがある。これに『国立大学法人高知大学』を加えると何やら悪意さえ感じるほどの長さになるのだが、古い言い方で済ますなら『農場教員』である。30年前に某大学の農場助手に採用され、以後2回大学を変わりながら、通算20年以上、農場での実習教育に携わっている。

本学農場は、現在、学部専門科目の「農場実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の4つの実習を走らせつつ、同じく専門科目の「フィールドサイエンス実習」や「自然環境学実習」に協力し、加えて、全学向け体験授業である教養科目の「高知の自然と農業を実践して学ぶ」の運営を担っている。

高知大学は農学部の敷地内に農場が同居している。このような、キャンパスとメインの農場が隣接している農学系大学は意外に少なく、中四国でも、山口大、鳥取大、岡山大はキャンパス内に農場があるが、愛媛大、香川大、島根大、広島大はキャンパスと農場が離れている。農場までバス移動ということになると、学生が現場に触れるのは週一度、あるいは夏休みの集中実習の数日間だけになるため、自分で何かを育ててみようというコンテンツを組むことができない。本学では、農場実習を履修する学生は毎学期、「担当圃」と称する1坪半ほどの土地で野菜の栽培を行う。頻繁に自分の畑の様子を見に行き手入れをすることが課せられ、手を抜くと自動成績採点装置よろしく畑が草まみれになって、不熱心振りが人目にさらされる。それなりに管理してやれば(ホントは農家さんレベルのこまめな管理をさせたいのだが)1人では食べ切れないほどの収穫があるので、それに味をしめてアドバンスクラスの実習Ⅲや実習Ⅳを受けに来る学生もいる。見栄えの良い野菜が収穫できると実家に送る学生がいるのは毎度のことで、「宅配便でわざわざ送って、高い野菜やねえって母さんあきれろぞ」とからかうが、親御さんからすれば通信簿が届いたようなもので、ウチの娘も白菜ぐらいは作れるようになったらしいとそれなりに喜ばれるのだろう。



さて、農場には全国大学附属農場協議会という組織があって、農学系大学の農場長や農場主事が集まって、年に2回、文科省からのお達しを聞いたり、農場同士で愚痴を言いあったりしている。数年前、文科省は農場実習内容の質的保証が大事であって各大学とも誠意を持って取り組みなさいとのお触れを出した。その際は、質的保証とはずいぶん馬鹿にした話やな、エビデンスを出せ言うんなら白菜でも提出したるか、と憎まれ口は聞いたものの、質保証を具体的に示せと言われた場合でも十分に説明可能であろうということで、このお触れ自体はあまり気にしなかったが、驚いたのは、質の証明に恐れをなした大学がちらほらあって、自分のところでは網羅的な生産展示ができないから農場協議会で実習運営のガイドブックかマニュアルを作らないかと提案してきたことである。農場実習は別に各種作目を網羅的にやる必要は全くなく、農場でルーティーンに行われている生産活動を活用して生物生産のキモになる部分を教えればいはずである。ウチの農場は狭くて水田1枚しかありません、私の専門はイネではありません、それでも実習生には思う存分学ばせてみせますというのが実習担当教員の心意気だと思うが、よっぽど弱気なのか、あるいは生物生産とはてんで関係のない研究者が農場教員のポストを占めてしまい、今になって右往左往しているのか、と邪推する。

本学の農場実習は通常、教員5人、技術職員6人が常時出勤して運営にあたっている。50人を超える受講生を実習作業に集中させるためには、メインの指導者だけでなく、引率、誘導、見回り、声掛け、質問対応要員のチームワークが肝心である。また、退屈な疲れる作業を続けてへトへトになることも産業活動を疑似体験する上で重要であるが、その際には、おだててすかして励まして叱り飛ばさねばならない。必然的にコミュニケーションを取るため、農場実習担当教員は、学生の顔と名前を早いうちから憶える。学生指導上、大変結構なことかと思っている。





コンピテンシー面接始まります！

FD 部会長 立川 明

高知大生の皆さん、3年生以下のほとんどの方は、PROGテストを受験しているのでコンピテンシーという言葉聞いたことがあると思います。ご存じない方はパイプライン45号をご覧ください。現在、企業の採用試験ではコンピテンシー面接というものが行われ、皆さんの基礎力が測られています。この流れは、公務員試験や教員採用試験にも取り入れられ始めました。近い将来、全ての職種でこの面接方法が取り入れられる可能性があります。就活が始まる前に、コンピテンシーを鍛えておきましょう。PROGテストの結果をよく見て、自分の強み、弱みをしっかり理解しましょう。PROGテストの結果報告書には、どのような体験がどのような能力を伸ばすのか、受験者ごとにアドバイスが書かれています。これを活用しましょう。強みを伸ばすと同時に、弱みを克服しましょう。日本人の多くはできないことや弱点に目が行きがちですが、社会の荒波を渡っていくためには強みによって勝ち抜いていくことも必要になります。強みを伸ばすこと、弱みを克服すること、この両方に取り組みましょう。

自己肯定感を持っていますか？

「自分のことが嫌い」そういう学生を見ることが多々あります。自己肯定感が持てないため、自信が無く自分の欠点ばかりが気になり、自分を好きになれないようです。なぜそうなってしまうのか。それは今までさんざん周りからそうインプットされ続けたせいかもしれません。あなたの家族や学校の先生、部活の先輩も、あなたのためを思えばこそ、欠点を指摘し、改善を求めます。ですが、十分に愛情を感じる事ができないと心の発達が進まず、自己肯定感が身に付かないまま年齢だけを重ねてしまい、結果的に嫌いな自分のままで止まってしまいます。このこと



が若者のパーソナリティ障害の原因となっているようで、増加傾向にあるそうです。だからといって「さあこれから自己肯定感を持ちましょう」と言ってすぐに変われはしないような気がします。

エイミー・カディさんがTED(スーパープレゼンテーション:NHKで放送中)でこんなことを言っています。「出来る学生のように振る舞いなさい」学生の頃、先生からそう言われてやってみたそうです。最初は違和感があったけれども、そのうちそれが自分になったそうです。嫌いな自分をやめて、好きな自分を思い描き、そのように振る舞えば良いのです。皆さんもやってみましょう。

(参考URL:https://www.ted.com/talks/amy_cuddy_your_body_language_shapes_who_you_are?language=ja)

自分をマネジメントしよう！

ドラッカーは「経営者に贈る5つの質問」(ダイヤモンド社)の中で、こう問いかけています。

- 1 われわれのミッションは何か？
- 2 われわれの顧客は誰か？
- 3 顧客にとっての価値は何か？
- 4 われわれにとっての成果は何か？
- 5 われわれの計画は何か？

あなたが今取り組んでいる事をこの5つの質問で分析してみましょう。「顧客」という言葉が出てきますが、この言葉は営利目的の活動における「買い手」の意味に限られません。あなたの活動の対象となる人、全てがここに当てはまります。そうすると、学業においても顧客はいます。部活動や、アルバイト、ボランティアにおいても顧客はいます。それが誰で、どのようなことが期待されているかを考えます。これをもとに計画を立てましょう。そして就活が始まるまでに、自分をマネジメントできるようにしておきましょう。就活が始まるとマネジメントの連続です。自分を管理する、スケジュールを管理する、調整する、行動する事が求められます。これらができないと、とたんに困ったこととなります。そしてこれらは、すぐにできるようにはなりません。練習が必要です。日頃のレポート、部活、バイト、テスト、その他の活動の中で練習しましょう。優先順位を付け、時には何かを切り捨てる選択も迫られます。その時、間違えた切り捨てるをしないようにすることも経験が必要です。入学後、早い時期にセルフ・マネジメントに取り組みましょう。



eラーニングという新しいチャレンジを!

大学教育創造センター 竹岡 篤永

わたしは大学卒業後に社会人として働く傍ら、授業のすべてがeラーニングで行われる大学院でeラーニングの学位(正式名称は修士(教授システム学)です)を取りました。2010~2012年のことです。そして現在、高知大学でeラーニングの担当教員として働いています。(正確には、大学生→社会人→専業大学院生→社会人→兼業大学院生→社会人として今に至ります。)

eラーニングによる学習って、どんな感じだと思いますか? 黙々とパソコンに向かう孤独なイメージ? ずっとビデオを見続けるイメージ? わたしの通っていた(実際には通ったりはしませんが)大学院は、それとは全く違うものでした。そもそもビデオなんてほとんどないし(読んだり、調べたりが中心)、孤独どころか、毎回毎回、書き込み式のディスカッションがあるので、声こそ聞こえないものの、同級生と一緒に学習をしているという気持ちが強くなります。遠隔非同期(離れた場所で、異なる時間に行うこと)のグループワークもあります!

それでももちろん、独りでパソコンに向かうことが出発点です。自ら「やろう!」という気持ちになって、実際にパソコンを起動し、eラーニングのシステムにアクセスしなければ学習は始まりません。そうやって始めてみると、「そこにみんながいる」という感じがしました。eラーニングは継続が難しいと言われていますが、目的意識を絶えず新しくし、同級生と励まし/励まされながら、乗り切ることができると思いました。

高知大学では現在、大学連携(四国の5つの大学が連携しています)による科目がeラーニングで開講されています(今のところあまり科目数は多くありません)。つまり、他大学の授業を受けることができるということです。他大学の同級生と励まし合って学習を進めていくのも、新しいチャレンジですね!機会があれば、挑戦してみたいかがでしょうか?わたしも来年度にはeラーニング科目を開講する予定です。楽しみに!



編集後記

「なぜ?」「もっと知りたい」気持ちを大切に、「一生もの」の財産を築いてもらえると嬉しいです。(I)

共通教育のことを学生さんが「パンキョー」と言っているのを聞いたことがありますか? かつて(平成1ケタ頃まで)共通教育は一般教養と称されていました。単なる教養にとどまらず、専門教育への学びにつなげて下さい。(K)

高知大学共通教育広報誌 [ハイブライン] No.46

発行 / 高知大学共通教育実施委員会
 編集 / 共通教育実施委員会広報部会
 〒780-8520 高知市曙町2丁目5-1
 ☎088-844-8168 (学務課全学・共通教育係)
 発行日 / 2015年12月
 制作 / (有)西村謄写堂

広報・記事についてのご意見をお待ちしています。
 Mail : gm06@kochi-u.ac.jp